

様式1 令和7年度 山梨県立あけぼの支援学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

| | |
|-----------|--|
| 学校目標・経営方針 | 「いきいきと～Full of life～」を校訓とし、教育と医療・福祉が密接に結びついた特色ある教育を実現し、質の高い自立と社会参加に向けて可能性を最大限に引き出す教育を行う。 |
|-----------|--|

山梨県立あけぼの支援学校校長 中込 昭彦

| | |
|----------|---------------------------------|
| 本年度の重点目標 | 1 児童生徒の可能性を発見し、発達を支援する教育の推進 |
| | 2 安心して健やかな学校生活を享受することを保障する教育の実践 |
| | 3 共に豊かな人生を共有する教育の推進 |
| | 4 教職員が働きやすい職場環境づくり |

| | |
|-----|-------------------|
| 達成度 | A ほぼ達成できた。(8割以上) |
| | B 概ね達成できた。(6割以上) |
| | C 不十分である。(4割以上) |
| | D 達成できなかった。(4割以下) |

| | |
|----|--------------|
| 評価 | 4 良くできている。 |
| | 3 できている。 |
| | 2 あまりできていない。 |
| | 1 できていない。 |

| 本年度の重点目標 | | | 自己評価 | | | |
|----------|-------------------------------|--|--|--|-----|--|
| 番号 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 自己評価結果 | 達成度 | 成果と次年度への課題・改善策 |
| 1 | 児童生徒の可能性を発見し、発達を支援する教育の推進 | ICFを基にした学習活動と学習で得た知識及び技能を活用する力を獲得させるための教育課程の検討 | ICFを基にした学習の定義を周知徹底教育課程委員会においてICFを基にした学習について検討 | <ul style="list-style-type: none"> 教育課程委員会が現状と課題を整理し、他県で先進的な取組をしている学校の校長や国立特別支援教育総合研究所の研究者からのアドバイスを参考にしながら教育課程の編成に取り組んだ。 高等部の単一障害の教育課程について見直しを行い、より生徒の実態に合わせた選択ができるようにした。 前年度からの引継ぎやグループ、学部での情報交換を丁寧に行い、児童生徒の実態把握表を活用し、指導へつなげた。 ICFを基にした学習の定義を定め、職員で共通確認を行った。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態が年々多様化していく中で、今後も学部間で共通理解を図りながら、丁寧に教育課程の検討を行っている。 児童生徒のできることや本人に適した支援に注目し、学習内容を検討していく。 |
| | | 学習指導要領に基づいた児童生徒に育成すべき資質能力育成を踏まえた個別の指導計画のあり方の検討 | 学校研究を利用し個別の指導計画の形式を検討する | <ul style="list-style-type: none"> 令和8年度より県で統一する個別の指導計画の書式について試行を行い、使にくい点をまとめ、随時教育委員会に伝えている。 学習指導要領に基づき、複数担任制の利点をいかした個別の指導計画づくりに取り組んでいる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 県で統一する個別の指導計画の書式について、他の肢体不自由特別支援学校の意見や県の動向についても確認しながら、スムーズに導入できるようなシステム作りを行っている。 |
| | | 個々の児童生徒の実態に応じたICTを活用した授業づくりの実践 | ICTを活用した一人一実践の取り組み ICT機器の活用マニュアルの整備と活用の促進 ICT支援員等の活用状況 | <ul style="list-style-type: none"> ICT機器(iPad、PC、スーパードーター、トーキングエイド等)の整備やアップデートを行い、教材として活用した学習を積極的に行うことができた。 視線入力をおとして、児童生徒の興味関心を知り、教材作成や児童生徒とのコミュニケーションに生かすことができた。 訪問教育や面接指導などを対象とした遠隔教育を実施し、オンラインで訪問生と通学生が一緒に学習できる場を設け、共に学ぶことができた。 ICT支援員を講師としてICTに関する研修会を夏季休業中に4回実施した。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態や個々のニーズに応じて新規のアプリケーション導入を進めるなど、ICT機器の更新や整備を計画的に行っていく。 学校としてICTを用いた生活支援に関する研究を重ね、専門性の向上を図る。 |
| | | キャリアパスポートを活用したキャリア教育の推進と卒業後を見据えた系統的な進路指導の充実 | キャリアパスポート作成と振り返りの実践 | <ul style="list-style-type: none"> 学部会や職員会議などで、キャリアパスポートの作成を呼びかけ、100%作成を目指した。 福祉事業所見学の実施や進路だよりの発行、ブログの更新などをおとし、進路に関する新規の情報を提供した。 医療的ケアを実施できる福祉施設の一覧を作成した。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 小学部の段階から進路に対する意識を高めてもらえるよう、進路に関する取り組みを積み上げ、よりよい進路指導につなげる。 |
| 2 | 安心して健やかな学校生活を享受することを保障する教育の実践 | 危機管理マニュアルの再検討と、あけぼの医療福祉センターと連携した整備計画の立案 | 危機管理マニュアルの再検討、各種訓練の実施、検討学校・センター連絡会の実施と議事録の共有状況 | <ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ地震臨時情報発表時の対応等について、警備防災計画や消防計画の大幅な見直しを行い、警察署、消防署と連携した。 災害時の対応について、フロー図にして整理し、職員全体で共有した。 避難訓練及び引き渡し訓練について、これまでに出版された課題点を踏まえて再整備を行い、円滑に実施することができた。 災害時の対応について、あけぼの医療福祉センターとの連携会議を実施し、連携に向けて情報共有を図ることができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 災害時に医療的ケアを必要とする児童生徒があけぼの医療福祉センターへ避難することが可能であるかなどの課題について、あけぼの医療福祉センターとの連絡会議を定期的に行い、検討していく。 |
| | | 事故防止に向けたインシデント・アクシデントの報告・分析と、解決策・予防策の周知及び実践 | インシデント・アクシデント記録の蓄積と報告書の作成状況 教職員間の情報共有、意識化の検証 | <ul style="list-style-type: none"> インシデント・アクシデントの事例を収集し、同様のインシデント・アクシデントが起こらないよう職員会議で周知したり、防止策を提案したりすることができた。校内で迅速に共有すべき事例については、朝礼で伝え速やかな周知を心がけた。 あけぼの医療福祉センター医師と「緊急時対応検討会」をもち、緊急時の対応について共通確認することができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> レベル0(事故やトラブルには至っていないが、潜在的なリスクがある事象)の事例収集を定期的呼びかけ、教職員の安全な指導に対する意識を喚起し、未然防止につなげる。 緊急時の対応が迅速に行えるよう、継続して検討会を実施する。 |
| | | 食形態や摂食指導に係る学校全体でのスキルの維持充実と安全な給食指導の実施 | 外部専門家の活用状況と支援内容に関するアンケートの実施 摂食研修の実施回数と内容に関するアンケート | <ul style="list-style-type: none"> 摂食実技相談等において、医師から指導助言をいただき、児童生徒の安全な給食指導の実施につなげていくことができた。 児童生徒の実態に合わせた食形態やアレルギー対応、食育指導などについて、あけぼの医療福祉センター栄養給食科や委託業者と連携し、安全な給食の提供を行うことができた。 経管栄養での初期食注入について研修会を実施し、指導力の向上に努めることができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 摂食指導医からの専門的な助言を指導の中に取り入れ安全な給食指導に努める。 各種研修会をおとして、学校としての指導力向上に努める。 |
| 3 | 共に豊かな人生を共有する教育の推進 | 本校の特色と専門性を生かした地域支援活動の推進 | 教育相談実績数の年度比推移やアンケートの実施 研修の実施回数 | <ul style="list-style-type: none"> 肢体不自由専門部特別支援連携会議において、肢体不自由特別支援学級担任や市町村の担当者と情報共有することでさらに連携を深めることができた。 地域支援だよりをおとして、本校のセンター的機能について、圏域の保育園、こども園、幼稚園、小中学校、県立高校、市町村教育委員会などに周知した。 小中学校からの訪問支援要請が昨年の倍以上となり、担任との連携を図ることができた。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 本校のセンター的機能について情報発信を行い、学校、市町村、福祉等の関係機関と連携しながら対象児童生徒の教育活動の充実を図る。 地域支援だよりをホームページに掲載し、多くの人に情報提供できるようにしていく。 |
| | | 病弱に係る高等部入学希望者への支援の推進及び就学相談の充実 | 入学相談、就学相談実績の推移 病弱に関する研修の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 高等部進学に関する電話相談や学校見学などの教育相談を行った。 病弱専門部連携会議第1に参加し、病弱に係る現状や課題を共有した。また、病弱にかかわる研修会に参加し、特別支援教育コーディネーター業務に活かすことができた。 病弱教育に関する校内研修を3回実施し、専門性の向上に努めた。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 病弱に関する研修参加や校内研修を充実させることで専門性を高め、相談機能の充実を図り、受け入れ体制を整えていく。 |
| 4 | 教職員が働きやすい職場環境づくり | 教職員の勤務時間や健康管理を意識した働き方の推進 | 過去の出退勤調査との比較 学校全体のストレスチェック結果の分析 職場環境アンケートの実施 | <ul style="list-style-type: none"> 管理職が面談や校内巡回をおとして教職員の様子を観察している。 出退勤調査を通じて、教員の勤務状況を把握し、業務分担の調整を行った。 心身の健康管理に関する情報を給湯室に掲示したり、メールで伝達したりした。 ストレスチェックの呼びかけを行い、昨年度より受検率をあげることができた。 職員の休憩室を2部屋設置することができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 教職員の心身の健康を気につけ、業務を助け合い、相談しやすい雰囲気を作る。 職員の休憩室について、必要物品を検討し、整備を進めていく。 |
| | | ICTを活用した校務の効率化の推進 | 研修の実施 校務支援システム「BLEND」の導入 | <ul style="list-style-type: none"> ハイユースパソコン等の利用に関するトラブルに迅速に対処し、校務が滞らないように取り組んだ。 来年度から導入される新校務支援システム「BLEND」について必要な環境整備を行い、使用方法に関する研修を行った。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 校務支援システム「BLEND」の導入に向け、サポートや研修を計画的に実施していく。 ICTの活用に向けた研修やサポート、アドバイスを発行していく。 |
| | | 教師一人一人のライフステージや課題を意識した主体的な研修の推進 | 人事評価制度を利用した研修の推進や面接時の確認 総合教育センターの研修My Pageの導入数の確認 | <ul style="list-style-type: none"> 「山梨県教育振興基本計画」と「キャリアステージにおける教員等育成指標」を活用し、授業参観や面談を通じて、教員が各ステージに応じて学び続ける意識づくりに努めた。 教職員へメールや掲示物などで研修会や参考書籍の情報を周知した。 定期的に研修My Pageへの入力と呼び掛けた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 教職員のニーズや本校の課題を確認しながら、研修会や書籍等の紹介を行っていく。 研修My Page(研修に関する計画、研修履歴)の活用を促していく。 |

| 学校関係者評価 | |
|----------------|---|
| 実施日 (令和8年2月3日) | |
| 評価 | 意見・要望等 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画について県統一の書式が示されたとのことだが、教科指導においても自立活動の指導においても、客観性、妥当性、信頼性を担保するために、指導と評価をどのように行っているのかを説明できるようにすることが必要だと思う。 ICTを活用した学習活動については、運動障害が重度の児童生徒に対して視線入力を行ったり、VOCA等を活用したり、児童生徒の実態や学習状況に応じた活用ができる。児童生徒の生活を豊かにするという観点から、学校だけの使用に限るのではなく、家庭や事業所での活用の可能性も検討してほしい。また、卒業後にもつながる使い方を工夫してほしい。 児童生徒の好きなものを教材にするなど児童生徒のやる気を引き出す工夫が多くされており、視線入力も可能性を広げてきている。 キャリアパスポートは、児童生徒が作成と振り返りを通して自分自身について考えるためのものであることをしっかりと押さえて指導に当たってほしい。 卒業後の進路について、早い段階から本人、保護者が意識できるような進路に関する取り組みを行うことは本人の希望に沿った進路選択につながると思われる。 医療的ケアが必要な児童生徒の放課後デイサービスや卒業後の進路先の開拓については、地域性もあり難しい面があると思う。医療的ケアを実施できる施設一覧を作成したことは評価できる。今後も学校と保護者が協力して地域への働きかけを継続していただきたい。また、あけぼの医療福祉センターと協力していくことも必要だと思う。 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 防災やアクシデントへの対応について、危機感をもって積極的に取り組んでいる。児童生徒の命を守るために、あけぼの医療福祉センターと具体的な連携が図られているので、今後も積み重ねてほしい。特に災害時に医療が必要な通学の児童生徒も受け入れてもらえる体制があることは心強い。 学校運営協議会の場でも防災対策は喫緊の課題であるとして熟識を行った。防災対策として各種計画の見直しとともに、フロー図により可視化したことは安全に向けて大切な作業であったと思う。 災害時の対応について、あけぼの医療福祉センターとの連絡会議を定期的に開催したことやおむつや酸素等の備蓄品の用意をしたことは評価できる。ただ、医療的ケアの研修を先生方も受けているが実際にケアをどの程度担っているか疑問に思う。 医療的ケアが必要な児童生徒が多数在籍していることから、先生方の医療的ケアに関する知識や技能、緊急時の対応など、様々な学ぶ機会を設けていることは良いと思う。保護者からのアンケートで医療的ケアの実施に対する不安な声が寄せられていたので、学校での取組を丁寧に説明し、保護者の不安を払拭してほしい。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> インクルーシブ教育の推進により、小中学校の通常学級にも特別な支援が必要な子どもが在籍している。また、特別支援学級に在籍する子どもの数も増加している。地域におけるセンター的機能の発揮はますます重要になっている。今後も学校現場の多様なニーズを把握し、的確な支援を行っていけるよう努めてほしい。 病弱教育について、研修機会をつくり専門性を高める取り組みをしたことは高く評価できる。病弱の生徒の入学に備えて、受け入れ体制を整えておくことは必要だと思うので、準備を継続して行ってほしい。 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 教員評価について、全体の項目が前年度に比べ改善し、ほとんどの項目で95%を超えていることから、先生方にとって働きやすい職場環境にある。様々な研修を実施して先生方の専門性の向上を図っていることに期待感をもった。今後も継続して、働きやすい環境づくりに取り組んでほしい。 教職員の勤務時間や健康管理を意識した働き方の推進に向けて、管理職を中心に教職員の健康管理やメンタル面のサポートなどの取り組みができてきていることは評価できる。 児童生徒数の減少、通学生とセンター生とをわけていること等、大きな課題がある。喫緊の課題として解決に向けて取り組んでほしい。 |

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。